

月	単元					
	単元名	時数	学習の目標（ねらい） 及び内容	評価の観点		
				知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
				1	1	1
4月	1 広がる学びへ見えないだけ	1	◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	○		○
	アイスプラネット	4	◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ◎文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えることができる。	○	○	○
	問いを立てながら聞く	1	◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。 目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。【ICT活用】 ◎論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。	○	○	○
5月	季節のしおり 春		抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	○		○
	枕草子	3	◎現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる。 ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 ◎目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。【ICT活用】	○	○	○
	情報整理のレッスン	1	◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。【ICT活用】	○		○
	多様な方法で情報を集めよう 職業ガイドを作る	5	◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。【ICT活用】 ◎目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。	○	○	○
	漢字1	1	◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。	○		○
	クマゼミ増加の原因を探る	4	◎話や文章の構成や展開について理解を深めることができる。 ◎文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係などを捉えることができる。 ◎文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができる。【ICT活用】	○	○	○
6月	情報整理のレッスン1 思考の視覚化	1	◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。【ICT活用】	○		○
	魅力的な提案をしよう プレゼンテーションをする	5	◎言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づくことができる。 ◎自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫することができる。 ◎資料や機器を用いるなどして、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。【ICT活用】	○	○	○
	漢字に親しもう2	1	◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。	○		○
	文法への扉1 単語をどう分ける？	2	◎単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解することができる。	○		○
	メディアの特徴を生かして情報を集めよう デジタル市民として生きる	3	◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。 ◎目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈することができる。 ◎観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えることができる。 ◎目的や意図に応じて、多様な方法で集めた材料を整理することができる。【ICT活用】	○	○	○

7月	短歌に親しむ 短歌の創作教室 短歌を味わう	4	◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ◎観点を明確にして短歌を比較するなどし、短歌の構成や表現の効果について考えることができる。 ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 ◎表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる短歌になるように工夫することができる。	○	○	○	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、観点を明確にして短歌を比較するなどし、短歌の構成や表現の効果について考えている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・「書くこと」において、表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる短歌になるように工夫している。 【態】進んで短歌の構成や表現の効果について考え、学習の見通しをもって短歌を創作しようとしている。
	言葉の力	2	◎本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。 ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	○	○	○	【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 【態】進んで文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。
	言葉1 類義語・対義語・多義語	2	◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	○		○	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【態】今までの学習を生かして、積極的に類義語と対義語、多義的な意味を表す語句などについて理解しようとしている。
	言葉を比べよう もっと「伝わる」表現 を自ざして	1	◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。【ICT活用】	○		○	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【態】今までの学習を生かして、積極的に抽象的な概念を表す語句の量を増し、語感を磨こうとしている。
	熟語の構成 読書を楽しむ	1	◎本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。	○		○	【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。 【態】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを進んで知り、今までの学習を生かして、本の魅力や感想を共有しようとしている。
	翻訳作品を読み比べよう 星の王子さま 読書コラム 「わからない」は人生の宝物 読書案内 本の世界を広げよう	1	◎本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。 ◎観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えることができる。 ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	○	○	○	【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 【態】進んで表現の効果について考え、学習課題に沿って二つの翻訳を比べて感じたことを発表しようとしている。
9月	季節のしおり 夏		抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	○		○	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
	ヒューマノイド	4	◎文章の構成や場面の展開についての理解を得ることができる。 ◎過去と現在、伏線と結末の関係を読み解き、登場人物の言動の意味を考えることができる。	○	○	○	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。 【態】粘り強く登場人物の言動の意味について考え、学習課題に沿って作品の印象を伝え合おうとしている。
	字のない葉書	3	◎本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。 ◎観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えることができる。	○	○	○	【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。 【思・判・表】「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えている。 【態】進んで表現の効果について考え、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。
	聞き上手になろう 質問で想いや考えを引き出す	1	◎言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づくことができる。 ◎論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。	○	○	○	【知・技】言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。 【態】粘り強く論理の展開に注意して聞き、今までの学習を生かして思いや考えを引き出す質問をしようとしている。
	表現を工夫して書こう 手紙や電子メールを書く	3	◎言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づくことができる。 ◎敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。 ◎根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。	○	○	○	【知・技】 ・言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。 ・敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。 ・「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 【態】積極的に自分の考えが伝わる文章になるように工夫し、学習課題に沿って通信手段を選び、通信文を書こうとしている。
	【推敲】表現の効果 を考える	1	◎敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。 読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えることができる。	○	○	○	【知・技】敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。 【思・判・表】「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。 【態】粘り強く文章を整え、今までの学習を生かして手紙を推敲しようとしている。
	言葉2 敬語	1	◎敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。	○		○	【知・技】敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。 【態】今までの学習を生かして、積極的に敬語の働きについて理解しようとしている。
10月	漢字2 同じ訓・同じ音をもつ漢字 漢字に親しもう3	1	◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 ◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	○		○	【知・技】 ・第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【態】学習課題に沿って、積極的に同音異義語を理解し、漢字を読んだり書いたりしようとしている。
	モアイは語る ——地球の未来	5	◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。 ◎文章の構成や論理の展開について考えることができる。 ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	○	○	○	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開について考えている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 【態】粘り強く論理の展開について考え、学習の見通しをもって筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめようとしている。
	思考のレッスン2 根拠の吟味	1	◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。	○		○	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。 【態】今までの学習を生かして、積極的に意見と根拠の関係について理解しようとしている。
	根拠の適切さを考えて書こう 意見文を書く	4	◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。 ◎根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。	○	○	○	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。 【思・判・表】「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 【態】粘り強く根拠の適切さを考え、学習の見通しをもって意見文を書こうとしている。
	漢字に親しもう4	1	◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。	○		○	【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
	【討論】異なる立場 から考える	1	◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。 ◎互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。	○	○	○	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。 【態】進んで意見と根拠の関係について理解し、今までの学習を生かして異なる立場の人の意見を想定しようとしている。
	立場を尊重して話し合おう 討論で多角的に検討する	4	◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。 ◎目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。 ◎互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。	○	○	○	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。 ・「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。 【態】進んで互いの立場や考えを尊重し、学習の見通しをもって討論しようとしている。

1 1 月	聞きひたる 月夜の浜辺	1	◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ◎詩の構成や表現の効果について考えることができる。	○	○	○	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思・判・表】「読むこと」において、詩の構成や表現の効果について考えている。 【態】進んで表現の効果について考え、今までの学習を生かして詩を朗読しようとしている。
	季節のしおり 秋		◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	○		○	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 →作品中の「秋」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
	音読を楽しむ 平家物語 「平家物語」の世界／「平家物語」の主な主人公たち	1	◎作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。 ◎現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる。	○	○	○	【知・技】 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる ・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。 【態】進んで古典に表れたものの見方や考え方を知り、学習課題に沿って朗読しようとしている。
	扇の的 ― 「平家物語」から	3	◎作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。 ◎現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる。 ◎登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈することができる。	○	○	○	【知・技】 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。 ・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。 【態】進んで登場人物の言動の意味について考え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
	仁和寺にある法師 ― 「徒然草」から	3	◎作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。 ◎現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる。 ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 ◎伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫することができる。	○	○	○	【知・技】 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。 ・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・「書くこと」において、伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。 【態】積極的に考えたことを知識や経験と結び付け、学習の見通しをもって登場人物について論じる文章を書こうとしている。
	漢詩の風景	3	◎作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。 ◎観点を明確にして漢詩を比較するなどし、漢詩の構成や表現の効果について考えることができる。	○	○	○	【知・技】作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。 【思・判・表】「読むこと」において、観点を明確にして漢詩を比較するなどし、漢詩の構成や表現の効果について考えている。 【態】進んで作品の特徴を生かして朗読し、学習課題に沿って好きな漢詩を選び、その理由を述べようとしている。
1 2 月	君は「最後の晚餐」を知っているか	4	◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。 ◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。 ◎目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈することができる。 ◎観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えることができる。	○	○	○	【知・技】 ・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。 ・情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。 【態】粘り強く観点を明確にして文章を比較し、今までの学習を生かして考えたことを文章にまとめようとしている。
	魅力を効果的に伝えよう 鑑賞文を書く	2	◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ◎根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。 ◎表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。	○	○	○	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 ・「書くこと」において、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見い出している。 【態】進んで表現の効果を考えて描写し、今までの学習を生かして鑑賞文を書こうとしている。
	漢字に親しもう5	1	◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。	○		○	【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
	文法への扉2 走る。走らない。走ろうよ。	2	◎単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解することができる。	○		○	【知・技】単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解している。 【態】今までの学習を生かして、積極的に単語の活用について理解しようとしている。
1 月	研究の現場ようこそ	1	◎本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。 ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。【ICT活用】	○	○	○	【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 【態】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを進んで知り、今までの学習を生かして感想を伝え合おうとしている。
	季節のしおり 冬		抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	○		○	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
	走れメロス	6	◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ◎登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈することができる。 ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 ◎根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。	○	○	○	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 【態】粘り強く登場人物の言動の意味などについて考え、学習の見通しをもって作品の魅力を文章にまとめようとしている。
	漢字に親しもう6	1	◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。	○		○	【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
	文法への扉3 一字違いで大違い	2	◎単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解する。	○		○	【知・技】単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解する。 【態】今までの学習を生かして、積極的に助詞や助動詞の働きについて理解しようとしている。

2月	構成や展開を工夫して書こう 「ある日の自分」の物語を書く	4	◎話や文章の構成や展開について理解を深めることができる。 ◎伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫することができる。 ◎表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。	○	○	○	【知・技】話や文章の構成や展開について理解を深めている。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。 ・「書くこと」において、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。 【態】粘り強く文章の構成や展開を工夫し、学習の見通しをもって物語を創作しようとしている。
	言葉3 話し言葉と書き言葉	2	◎話し言葉と書き言葉の特徴について理解することができる。	○		○	【知・技】話し言葉と書き言葉の特徴について理解している。 【態】今までの学習を生かして、積極的に話し言葉と書き言葉の特徴について理解しようとしている。
	漢字3 送り仮名	2	◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。	○		○	【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり、書いたりしようとしている。
	国語の学びを振り返ろう テーマを決めて話し合い、壁新聞をつくる	5	◎話や文章の構成や展開について理解を深めることができる。 ◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。 ◎互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。 ◎伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫することができる。 ◎読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えることができる。	○	○	○	【知・技】 ・話や文章の構成や展開について理解を深めている。 ・情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。 ・「書くこと」において、伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。 ・「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。 【態】粘り強く文章の構成や展開を工夫し、今までの学習を生かして壁新聞を作ろうとしている。
3月	木	2	◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ◎詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	○	○	○	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 【態】進んで詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、学習課題に沿って作者のものの見方について話し合おうとしている。
	学習を振り返ろう	3	◎言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づくことができる。 ◎敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。 ◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。 ◎文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えることができる。 ◎観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えることができる。	○	○	○	【知・技】 ・言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。 ・敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。 ・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えている。 ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。 ・「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫している。 ・「話すこと・聞くこと」において、論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。 ・「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 ・「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。 【態】進んで登場人物の設定のしかたや根拠の適切さを考え、今までの学習を生かして、学習課題に取り組もうとしている。
121							

		評価方法
①	知識・技能	定期考査・ワークシート・小テスト・発表
②	思考・判断・表現	定期考査・ワークシート・小テスト・発表
③	主体的に取り組む態度	ワークシート・小テスト・発表・ノート